

タスクの分解



以下は、記憶支援のために、タスクの分解を使用するためのガイドラインです。

タスクの分解は、認知症の方の記憶障害をサポートし、自立を促すために用いられます。モンテッソーリ教育における整えられた環境のツールの一つであり、家庭や介護施設など様々な場面で活用できます。タスク分解とは、一連の動作や行動を明確な手順で示す、簡単な指示や図解のことです。タスク分解を用いることで、歯磨き、着替え、トイレなど、日常生活の動作を自立して行えるよう支援できます。

タスクの細分化は、複数のステップからなる作業を完了するのが困難な人や、タスク自体はできるものの、その順序の記憶に支援が必要な人に役立ちます。書面による指示が役立つ人もいれば、記憶を補助するために図解が必要な人もいます。研究によると、外部の記憶補助具やプロンプトを使用すると、認知症の人は周囲の環境への関与度が高まり、ベッドで寝ている時間が減り、コミュニケーション能力が向上することがわかっています (Bourgeois、1990年、Judge、Camp、Orsulic-Jeras、2000年、Orsulic-Jeras、Schneider)。

タスクの分解を作成するには、まずその人の具体的なニーズを特定します。つまり、どのような作業にサポートが必要か、そしてその作業を成功させるために作業分解をどのように表示すればよいかを検討します。例えば、後者の場合、書面による指示が必要かどうか（そして、その場合に必要なフォントサイズは何か）、あるいは絵の方が適しているかどうかなどを検討する必要があります。また、その人が個人的にどのような言葉を使って物を指すか、あるいは物の場所をどのように示すかといった点も考慮する必要があります。例えば、その人と一緒に作業を確認し、手を洗う際に「洗面器」や「シンク」、あるいは「蛇口」や「水道栓」といった言葉を使うかどうかを確認します。お茶やコーヒーの淹れ方をタスクに分解した場合、カップをどこから取り出すかを思い出させるために、食器棚に「カップ」と書かれたサインが必要になるかもしれません。

個々の利用者のニーズが特定されたら、各手順を分かりやすく説明したフローチャートまたはリストを作成します。指示には必ず一人称を用います。例えば、「私の歯を磨く」や、トイレの指示であれば「僕のズボンを下ろす」などです。書面による指示は、耐久性を高めるためにラミネート加工した白、黄、またはクリーム色の紙に、黒インクで文頭を大文字にします。ポスターとして目立つ場所に掲示することで、記憶を呼び起こすことができます。

タスクの内訳が表示されたら、利用者と一緒に手順を確認し、理解度を確かめてください。その後、一定期間にわたって状況を観察し、担当者にとって適切に機能しているかどうかを確認してください。もし機能していない場合は、利用者と一緒に見直し、修正してください。

タスク分解の例：

- 歯を磨く
- トイレ
- 服を着る
- 手を洗う
- 紅茶／コーヒーを淹れる
- サンドイッチを作る
- 電子レンジを使う
- 電話をかける

認知症、障がい、高齢者のためのモンテッソーリ教育

ウェブサイトでは、私たちの基本原則（自尊心、自立、選択、有意義な関わり）を通して、ウェルビーイングをサポートする方法をご紹介します。各基本原則は、その必須要素とともに概説され、家庭や介護施設でこれらの原則を実践するための詳細なガイドラインが掲載されています。



ウェブサイト：[ガイドラインの情報とリソース](#)：[タスクの分解](#)